

第8次埼玉県地域保健医療計画（県央保健医療圏）取組状況（No.3）

重点取組	心の健康対策の推進
目標	住民誰もが安心して暮らしていける相談・支援体制を整備します。また、精神障害者が安心して自分らしく暮らせる地域づくりを推進します。
実施主体	医療機関、訪問看護ステーション、保健所、市町 等

市町

【鴻巣市】

主な取組	令和6年度		令和7年度取組計画
	取組内容・実績（見込みを含む）	課題・問題点	
① 精神保健福祉・訪問指導体制の強化	ひきこもりや精神科未受診の方から電話や窓口等で相談を受けた際の困難事例について、情報共有し、支援に取り組んだ。	引き続き情報共有し、支援に取り組む。	悩みを相談できる窓口案内を毎年度初めに1回作成し、普及啓発のため配布。また、窓口等で相談を受けた際の困難事例について、情報共有し、支援に取り組む。
② 精神医療対策の充実	こころの健康相談相談（予約制）を実施し、必要な方を医療機関へつなぐ。年22回実施、47名の市民が利用。（利用数は2/21時点）	予約が埋まってしまい2～3か月後になる場合や、予約が定員に達しない時もあるなど、予約状況に差がある。	年22回 実施予定
③ 退院後支援と地域包括ケア体制の充実	鴻巣・北本地域自立支援協議会精神障がい者部会主催の「こころの健康」フォーラムを開催。開催期日：令和7年1月22日 参加者数：268名	地域の支援者をつなぎを持ち、実行委員会への参加や開催への協力者を増やす。開催時期や場所など、より多くの方が参加しやすいものとする	物品販売や、ワークショップなどを通じて障がい者と触れ合う機会を広げ、障がいに対する理解が進むような取り組みを実施
④ 認知症ケア	・市内に5名の認知症地域支援推進員を配置。 ・推進員による認知症相談等1,876件（うちオレンジダイヤル相談支援62件） ・認知症カフェの開催40回 ・若年性認知症本人のつどい開催6回 ・初期集中支援チームによる支援新規8件 ・チームオレンジ登録者数58人	今後も認知症やMCIの方が増えていく中で、認知症のボランティアであるチームオレンジの育成は必要。また、複合化する認知症の方の相談には引き続き認知症地域支援推進員や初期集中支援チームでの支援を継続する必要がある。	引き続き、認知症サポーター活動促進・地域づくり推進事業（チームオレンジ）により、認知症サポーターのボランティア活動を通して認知症の人や家族の支援に取り組む。 推進員による認知症相談、認知症カフェの開催、若年性認知症本人のつどい開催、初期集中支援チームによる支援

【上尾市】

主な取組	令和6年度		令和7年度取組計画
	取組内容・実績（見込みを含む）	課題・問題点	
① 精神保健福祉・訪問指導体制の強化	・こころの健康相談 10回 ・こころの悩み相談 30回 ・いのちのオンライン相談「WEB窓口による随時申込み受付の実施」と「LINE窓口（毎週月21:45～22:45と毎週火15:00～17:00の実施）」	働いているなどの理由により、時間外や夜間に相談希望する市民に対する対応が求められている。	時間外や夜間相談希望者に対して、オンラインカウンセリング業者との委託契約により、相談枠を確保する予定
③ 退院後支援と地域包括ケア体制の充実	上尾・桶川・伊奈自立支援協議会において「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム部会」を開催し、地域の医療機関と福祉関係機関の連携を図った。	地域によって取り組みや資源の状況に差がある。	本人および家族等、当事者に参画していただくことも含め検討し、にも包括部会の取り組みの充実を図る。
④ 認知症ケア	(1)認知症初期集中支援チーム 新規支援件数：16件 (2)認知症サポーターステップアップ講座 集合型：1回 (3)本人ミーティング 認知症初期集中支援チーム(主催)：6回 (4)徘徊高齢者等探索サービス 利用者数：27人(R7.1末現在) 探索依頼数：2,214件(R6.4～R7.1の総数)	(1)8050問題や経済的な問題から、医療になかなか繋がらないケースや繋がった場合でもキーパーソンが支援が必要なケースなど支援期間の長期化が課題である。 (2)認知症サポーターステップアップ講座受講後の活動について検討する必要がある。 (3)若年性認知症の患者本人・家族の情報が少ない。若年性認知症の患者本人・家族と家族会等との連携が必要。 (4)認知症患者数に対して利用者数が少ないことから、より広く周知する必要がある。	(1)医療機関の受診や介護サービスの利用に繋げるなど、家族の介護負担軽減等の支援を包括的・集中的に行うとともに、チームだけでは解決できない問題は関係機関と協力しながら支援を行っていく。 (2)認知症サポーターステップアップ講座を開催。集合型 1回 (3)認知症初期集中支援チームが主催での本人ミーティングを開催。 (4)引き続き、徘徊高齢者等在宅で介護する者に位置探索端末機を貸与し、身体的または精神的負担の軽減を図るとともに、広報等で周知を図る。

【桶川市】

主な取組	令和6年度		令和7年度取組計画
	取組内容・実績（見込みを含む）	課題・問題点	
① 精神保健福祉・訪問指導体制の強化	基幹相談支援センターや近隣市町と合同で地域自立支援協議会を2か月に1回開催し、地域課題の整理や多機関連携の在り方を検討した。	困難事例が増加していることから、地域自立支援協議会を通して、各機関の支援力の向上や関係機関の連携強化を図る。	地域自立支援協議会を2か月に1回開催
② 精神医療対策の充実	自殺対策として、ゲートキーパー研修・メンタルヘルス研修をそれぞれ実施し、民生委員17名・市民の方34名が出席された。自殺予防対策週間では、桶川駅でティッシュ配布を行った。毎月1回「暮らしとこころの総合相談会」を実施している。	今後、自殺対策週間・月間に加えて、周知について広報、ホームページ、デジタルサイネージなども取り入れた自殺対策を行っていく。	令和6年度取組みにプラスして、ホームページ・デジタルサイネージなども取り入れた周知を行う。

<p>③ 退院後支援と地域包括ケア体制の充実</p>	<p>A：高齢者 ・退院後速やかに介護サービスを使う必要がある場合、入院中に介護認定調査を受けるようにする等、病院の相談員から支援がある。入院中の主治医より退院後のかかりつけ医に情報提供がなされ、在宅に戻っても、医療・介護のサービスを切れ目なく利用できている。 ・令和4年7月に北足立地区入退院支援ルールが完成している。</p> <p>B：障がい関連 自立支援協議会において、居住支援に関する研修を行う予定（R7.3月）</p>	<p>A：高齢者 ・北足立地区入退院支援ルールの運用が低い。事業所の人員が変わったり、周知が行き届いていないことが課題である。</p> <p>B：障がい関連 支援・体制の充実</p>	<p>A：高齢者 ・北足立地区入退院支援ルールの運用状況について関係機関へのアンケート調査を実施 ・入退院支援ルールの周知</p> <p>B：障がい関連 未定（R6は単発開催）</p>
<p>④ 認知症ケア</p>	<p>【認知症サポーター養成講座】 ・認知症の基本的知識や認知症の人への対応の仕方などを学び、職場や地域で認知症の人や家族を見守る応援者となる認知症サポーター養成講座を実施した。 R7.1月末時点 実施回数：23回 養成者数：775人</p> <p>【徘徊者見守りステッカー交付事業(ステッカーを配布し、利用者情報を警察・消防に提供)】 R7.1月末時点 年度中利用者：75名(年度途中で辞めた人も含む)</p> <p>【徘徊高齢者等家族支援サービス事業(GPS機能付機器の貸出し)】 R7.1月末時点 年度中利用者：11名(年度途中で辞めた人も含む)</p> <p>【認知症初期集中支援チーム】 ・認知症の人とその家族を支援するため、認知症サポート医、医療職及び介護職がチームとなって、認知症が疑われる人への早期診断、認知症の人への適切な医療・介護サービスにつなぐ支援等を実施。R7.1月末支援件数：8件 ・脳の健康度検診(認知症検診。70及び75歳の市民対象)を受診して「要精検」となった人へのフォローも担う。対象者：16名</p> <p>【おれんじカフェ(認知症カフェ)の開催】 ・認知症の人や家族、地域の人が集い、認知症の人と触れ合って病気の理解を深めたり、認知症介護の情報交換が出来る場：9か所</p> <p>【認知症ケア相談室】 (令和2年6月より開始事業) ・在宅で認知症の人を介護している家族に対し、認知症ケアの具体的な方法の相談を受けた。 R7.1月末時点相談件数：14件</p>	<p>・高齢化率は着々と高くなっており、認知症ケアを必要とする方は増えてくる。事業の周知、地域包括支援センターや介護事業所、区長、民生委員等の他、地域住民に対しての正しい知識の普及、相談先の周知、本人の声を拾いあげること等の取組が課題である。</p>	<p>【認知症サポーター養成講座】 ・市民向け講座については周知を徹底しながら継続する。小学校向けの講座については、市内7校全てで実施できるよう、校長会で依頼する。</p> <p>【ステッカー、GPS】 ・使用する人が増えることが目的ではないが、認知症等で徘徊の心配のある方に、ケアマネやおれんじ新聞(市の認知症施策に関する新聞)を通して周知に努める。</p> <p>【認知症初期集中支援、認知症ケア相談室】 ・人数が増えることが目的ではないが、必要とする人が利用できるよう、継続して周知に努める。</p> <p>【おれんじカフェ】 ・主催者(開催場所)がグループホーム中心。広報等で周知し、認知症サポーターステップアップ講座修了者等、カフェに関わる人も増やしていく。</p>

【北本市】

主な取組	令和6年度		令和7年度取組計画
	取組内容・実績(見込みを含む)	課題・問題点	
<p>① 精神保健福祉・訪問指導体制の強化</p>	<p>・精神保健相談 随時 ・こころの相談 年6回 ・暮らしとこころの総合相談会 年4回 ・障がい福祉に関する相談(随時) ・相談支援事業の実施</p>	<p>こころの相談については、予約者が少ない状況があり、必要な人が利用できるように周知方法に工夫が必要である。 相談内容の複合化・複雑化</p>	<p>・精神保健相談 随時 ・こころの相談 年6回 ・暮らしとこころの総合相談会 年4回 ・障がい福祉に関する相談(随時) ・相談支援事業の実施(委託)</p>
<p>③ 退院後支援と地域包括ケア体制の充実</p>	<p>・精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた協議の場を全2回実施。</p>	<p>地域の保健、医療、福祉関係者等の連携体制の構築</p>	<p>・精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた協議の場を全3回実施予定。</p>
<p>④ 認知症ケア</p>	<p>(1) 認知症初期集中支援チーム 新規支援件数：2件 今年度より必要時医師のアウトリーチを開始。 (2) 認知症サポーター研修 7回実施。 (3) 認知症サポーターフォローアップ講座 2回実施。 (4) オレンジカフェ 市内5か所開催。 (5) 徘徊高齢者等探索サービス実施。</p>	<p>(1) 地域包括支援センターとの相談のすみ分けが出来つつある。困難ケース対応には医師のアウトリーチは効果があると考えられるため開始し、支援効果を確認する。 (2) 開催回数、参加人数は増加傾向にある。今後はチームオレンジ立ち上げに向け、積極的に開催をしていく必要がある。 (3) 若年性認知症の患者本人・家族の情報が少ない。若年性認知症の患者本人・家族と家族会等との連携が必要。 (4) オレンジカフェの開催場所増に伴い、参加者が増加している。今後更なる充実に向け、市民をはじめ、関係団体との連携強化が必要である。 (5) 負担額の見直しのほか、新たな探索サービスについて引き続き検討する必要がある。</p>	<p>(1) 認知症初期集中支援チームの実施。 (2) 認知症サポーター研修 年8回程度実施。 (3) 認知症サポーターフォローアップ講座 年2回実施。 (4) オレンジカフェ市内5か所開催。 (5) 徘徊 高齢者等探索サービス実施。</p>

【伊奈町】

主な取組	令和6年度		令和7年度取組計画
	取組内容・実績（見込みを含む）	課題・問題点	
① 精神保健福祉・訪問指導体制の強化	相談者の状況に応じて面談や訪問を実施	・関連機関との連携強化 ・相談員の人材育成	前年度に引き続き、対象者に対して支援や相談等を実施する。
② 精神医療対策の充実	・「こころの健康相談」月1回 主にカウンセラーによる面談 実施見込者数 のべ25人 ・町ホームページに「こころの体温計」を掲載 自身や家族のこころのストレス状況等を知ることができる。	相談事業の周知徹底	・「こころの健康相談」月1回実施 ・「こころの体温計」継続掲載
③ 退院後支援と地域包括ケア体制の充実	町の社会福祉課、いきいき長寿課、社会福祉協議会等で対象者に対する支援や相談等を実施	本人の状態に応じた専門施設との連携。また相談の専門員の配置・人材育成	前年度に引き続き町の社会福祉課、いきいき長寿課、社会福祉協議会等で対象者に対する支援や相談等を実施する
④ 認知症ケア	本人及び介護家族等の支援のため、「いな見守りONE TEAM事業」を運営。関係機関へ出向き積極的な周知啓発活動をした。	圏域への事業及び新しい認知症観の周知。認知症の症状を理解し、認知症本人からの意見を聞ける機会を検討する。	前年度に引き続き啓発活動や事業周知を積極的に行い、事業対象者の検出及び協力者との連携を確保する。

医師会

【上尾市医師会】

主な取組	令和6年度		令和7年度取組計画
	取組内容・実績（見込みを含む）	課題・問題点	
④ 認知症ケア	認知症初期集中支援チーム業務受託 ・実施医療機関名：藤村病院 ・新規支援件数：16件 ・本人ミーティング(認知症初期集中支援チーム主催) 開催数：5回	・認知症初期集中チーム活動についての周知不足。 ・認知症当事者を入院につなげる際に、手続を行う家族に障害等の事情により手続きが難しい場合、手続初めその家族の支援も行う必要が出てきている。	認知症初期集中チーム活動についての事業を継続し、制度の周知を図る。

歯科医師会

【北足立歯科医師会】

主な取組	令和6年度		令和7年度取組計画
	取組内容・実績（見込みを含む）	課題・問題点	
④ 認知症ケア	・桶川市楽しく♪脳活教室へ歯科衛生士派遣 ・認知症研修会など受講	・桶川市楽しく♪脳活教室へ歯科衛生士派遣 ・認知症研修会などの受講者数増加を目指す	研修会などで得た知識の活用、周知などを充実させる

薬剤師会

【北本市薬剤師会】

主な取組	令和6年度		令和7年度取組計画
	取組内容・実績（見込みを含む）	課題・問題点	
③ 退院後支援と地域包括ケア体制の充実	北本市主催の研修に参加	各関係機関との連携	北本市主催の研修に参加
④ 認知症ケア	北本市主催の研修に参加	各関係機関との連携	北本市主催の研修に参加

保健所

【鴻巣保健所】

主な取組	令和6年度		令和7年度取組計画
	取組内容・実績（見込みを含む）	課題・問題点	
① 精神保健福祉・訪問指導体制の強化	R6.5.16 「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム推進研修」 公認心理師による人材育成研修 36名 随時 関係機関等と同伴訪問・面接、事例検討会	精神保健福祉法の改正により相談対象者が広くメンタルヘルスに課題を抱える方と拡大をした。保健所職員のみならず関係機関と共に相談技術の向上を図り、連携を深めて対応をしている。	随時 関係機関等と同伴訪問・面接、事例検討会実施、参加 新任職員を対象にした人材育成研修会の開催
② 精神医療対策の充実	R6.10.18 「精神保健福祉連絡協議会」 措置入院の運用状況及び退院後支援事業の取り組みについて協議 32名	精神科救急事例においては、地域責任制に基づいて管内の精神科医療機関での受け入れ対応をしてもらう等連携はうまくいっている。	「精神保健福祉連絡協議会」を開催し、さらなる連携強化を図る。
③ 退院後支援と地域包括ケア体制の充実	R6.10.18 「精神保健福祉連絡協議会」 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業について協議 32名 措置入院患者の退院時の調整会議の実施	地域包括ケアシステムの当所管内の課題を「住宅問題」として共有し意見交換を行った。	保健所県域での精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの協議の場を開催するとともに、自立支援協議会等に積極的に参加する。
④ 認知症ケア	管内認知症初期集中支援チーム連絡協議会等にて情報共有	8050問題に代表されるように、精神科救急事例においても高齢者(認知症等)の占める割合が増加している。	管内認知症初期集中支援チーム連絡協議会等にて情報共有